

各位

上場会社名 株式会社イナリサーチ  
 代表者 代表取締役社長 中川博司  
 (コード番号 2176)  
 問合せ先責任者 取締役 米田公生  
 (TEL 0265-73-6647)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年8月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,650	55	31	2	69.19
今回発表予想(B)	1,579	0	△24	△25	△841.55
増減額(B-A)	△70	△54	△56	△27	
増減率(%)	△4.3	△98.5	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,641	139	90	34	1,269.83

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,940	401	359	196	6,453.85
今回発表予想(B)	3,865	84	38	3	126.23
増減額(B-A)	△74	△317	△321	△192	
増減率(%)	△1.9	△79.1	△89.4	△98.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	3,566	359	295	125	4,404.98

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,650	86	64	35	1,165.09
今回発表予想(B)	1,579	8	0	△3	△116.33
増減額(B-A)	△70	△78	△65	△38	
増減率(%)	△4.3	△90.6	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,641	168	122	67	2,487.56

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,940	391	352	194	6,375.09
今回発表予想(B)	3,865	107	82	45	1,505.01
増減額(B-A)	△74	△283	△270	△148	
増減率(%)	△1.9	△72.4	△76.6	△76.4	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	3,566	403	350	192	6,727.08

## 修正の理由

## 1. 第2四半期連結累計期間連結業績予想

前連結会計年度の後半より、経済不況や主力薬が特許切れとなる2010年問題を背景として、大手製薬企業による開発製品の絞り込み、医薬品バイオベンチャーの業績悪化などにより、非臨床試験分野への委託が減少いたしました。当初は今期に入ってから市場環境が回復するものと予想しておりましたが、回復のスピードは当社予測より緩やかでありました。また、環境事業の売上も一部に遅れが生じ、その結果、当第2四半期連結累計期間の売上が当初計画より低下いたしました。

利益面では、将来投資として昨年7月に新棟(第7棟)を竣工し、併せて増員及び人材教育を行ってまいりましたが、同新棟の稼働率が予想よりも伸びず、今期につきましては、償却負担や人件費といった固定費増加分をカバーするには至らなかったことから、利益率が計画よりも大幅に低下いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、当期純利益は、前回発表した業績予想を下回る見込みとなりました。

## 2. 通期連結業績予想

医薬品非臨床試験事業については、M&A投資等で一時的に外注を手控えていた大手製薬企業からの受注が回復しつつありますが、回復のスピードは当社の当初予測より緩やかであります。

また、当社においては、欧州及びアジアからの受注が増加しており、下期に欧州の営業拠点の設立とアジアへの営業強化を図ることから、受注については国内の厳しい状況をカバーできるものと見込んでおります。なお、試験の収益については、円高や価格競争等の影響により、当面はやや厳しいものと予想しております。

この様な状況下で、現在は本社のサル検疫・飼育能力が限られていることから、当連結会計年度内にサルの検疫・飼育を目的とした新棟を竣工し、海外からの受託等により増大することが見込まれるサル試験のニーズに対応するべく体制を整えます。

環境事業については、第2四半期連結累計期間の遅れを挽回し、通期では前連結会計年度を上回る売上を予定しております。

しかしながら、当連結会計年度については、主力事業である医薬品非臨床試験事業における、今までの受注低迷による影響が売上・利益のいずれに対しても大きく、今後獲得する受注が今期の業績に直接貢献する度合は軽微であることから、前回発表した業績を確保することは困難であるものと判断いたしました。

## 3. 第2四半期累計期間個別業績予想

当第2四半期累計期間の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに連結の修正理由と同じであります。

## 4. 通期個別業績予想

通期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに連結の修正理由と同じであります。

(業績予想に関する注意)

本業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上